



小児の誤飲事故に注意!

2016年度「家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告」が2月に厚生労働省から報告されました。その中で、小児の誤飲(ごいん:誤ってのんでしまうこと)についての記載がありましたので、紹介します。

@誤飲の1位はタバコ!!

小児の報告事例数は728例で、原因と推定された製品の1位は「タバコ」147件(20.2%)、2位は「医薬品・医薬部外品」108件(14.8%)でした。

誤飲事故の発生時刻で最も多かったのは、午後5時~午後9時の時間帯において、合計304例(44.6%)でした。

誤飲事故の発生場所について、家庭内では、居間が373例、台所が38例と過ごす時間の長い場所で多く起こりました。自宅外では、自家用車内11例、保育所等9例、知人宅1例でした。

2位の医薬品等について見てみると、年齢層は広く、特に自らフタや包装を開けて薬を取り出せるようになる1歳~2歳未満児(42例)、2歳~3歳未満児(27例)にかけて多く見られました

PM8:00



@くすりを飲んでいる場面を見せない!!

家族が医薬品を服用している場合は、服用後はそのまま放置せず、小児の手の届かない場所に保管することはもちろんのこと、できれば、家族が薬をのんでいる様子を小児に見せないようにしていただくことも必要です。医薬品は、形状がラムネのように見えたり、ヒートシールから出す仕草が面白そうに見えたり、服用方法等が小児の注意を引きやすいためです。ご両親、祖父母、親戚などが口にしたのをまねてのんだり、カバンなどに入っているのに開けてのんだり、タンスの上に置いても椅子などを使って取り出したりします。保護者が「うちは誤飲対策をしている」と思っている状況でも発生しています。

医薬品の誤飲は、薬の作用が強くなったり、副作用が出たり、入院事例が多く報告されています。春は、引っ越しや、入学、クラス替え、模様替えなど、いつもと違った状況も起こりやすく、そうすると、うっかりすることも増えてしまいます。どうぞ薬の服用、管理、保管にはご注意ください。

